

授業だより

No. 1

押水第一小学校

令和6年 5月 10日

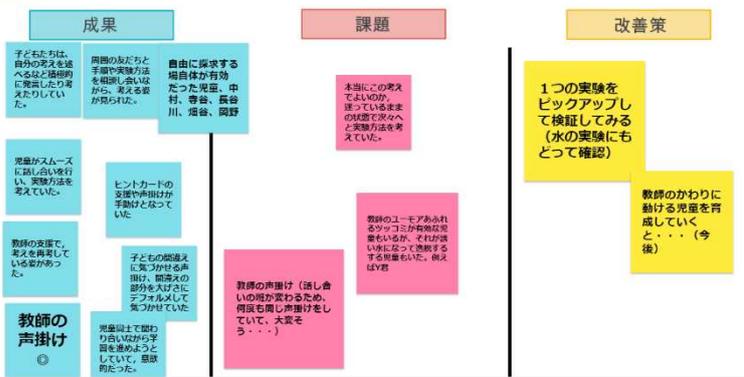
5年研究授業 理科「植物の発芽と成長」(授業者 仲島)

5月9日(木)に5年理科「植物の発芽と成長」の研究授業を行いました。授業後には、授業整理会、中能登教育事務所の武原指導主事からの指導助言がありました。

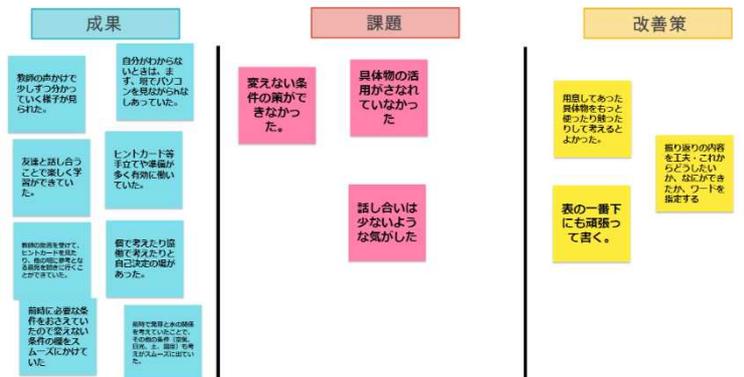
【授業整理会～各グループの話合いより～】

重点：植物の発芽に必要な条件を調べる実験の方法を考える際に、児童が考えようと思う条件の実験から考え、協働で解決するようにする。また、その際に児童の様子を見取り、個々に合った支援や声掛けを行う。

A 重点：問題を解決する場の充実



B 重点：問題を解決する場の充実



【指導助言～武原指導主事より～】

単元デザイン・単元デザインシートについて

- 児童主体で学びを進めていくために、大胆な単元デザインに変えてもよいが、児童の学びを確立するために教師が環境をしっかりと整えていくことが大切。

学習者主体の授業に向けて

- 本時の授業の中では、教師が声掛けをする場面が大変多かった。いわゆる過保護状態であった。声をかける量を減らし、児童がじっくりと考えることのできる環境にしていくことが大切である。見取りの中で、困っている子が出てきたときに、「どうしたの?」、「～さんの所へ行ってごらん。」、「～さんが分からないから、もう一度説明してくれる?」などの児童をつなげる声掛けをすることで児童に委ねる時間を大切にすることができる。
- 一度に4つのことを考える授業であったが、考えるものを1つに絞って、じっくりと考えることのできる時間を取り、グループに持ち帰って吟味するという方法を取ることで、児童同士の話し合いで解決していくことができたのではないかと。

対話を通じた問題解決について

- 他者と対話する子もいれば、声は出さないが頭の中で対話している子もいるので、教師側の見取りがこれまで以上に大切になってくる。他者と対話する際には、ただの意見交換にならないように共通したことを考えさせたり、考えを比較させたりするなど、視点を絞って対話をさせてみるとよい。

5月9日（木）

第5学年理科「植物の発芽と成長」の研究授業を受けて

明日から共通実践すること

学習者主体の授業をめざして…

児童がじっくりと考えることのできる環境を整え、児童同士がつながることのできるような声掛けを行う。